



編集月旦 2014年10月号

★日本銀行はまた**金融緩和**をしました。「公」（格差を容認しない）による「大同社会」ではなく、「利」によって格差を許容しつつ社会を動かそうとしています。「上下こもごも利をとれば国危し」（『孟子「梁惠王章句」』より）が憂慮されます。みなが利をむさぼりるとき、国は危うくなる。とくに上位のものが大きく奪うとき、国はいつそう危うくなる。企業は業績ではなく期待感で株価を上昇させています。国民の「デフレ・マインド（萎縮の心理）」の克服には、みんなが生涯を安心して暮らせる「長寿構想」の提案こそが急務です。

★「日本の社会・将来の姿 いま、この人たちの声を聴こう」を再録いたします。それぞれの方が確かな将来像を述べておられます。樋口（恵子）さんは史上初の「人生100年社会」です。小宮山（宏）さんは「産業革命」から「プラチナ革命」へ。わが国は新しい価値QOLである「省エネ時代」に入っていることを具体例によって示しておられます。原（勝則）老健局長は「支えられる高齢者」への「医療・介護」を確保する「地域包括ケアシステム」の充実を示し、同時に堀田（力）さんは、「支える側の高齢者」の地域参加を訴えて、「新地域支援構想」の説明で全国の自治体をまわっています。双方への理解と対応が、安心して地域で暮らす高齢者側の務めです。秋山（弘子）さんは高齢社会活動の成功事例を集めた「リソースセンター」の設立を提案。藤井（裕久）さんは「平和」を危うくする「戦争」への萌芽を近代史のなかに学ぶセミナーをつづけておられます。

★本稿が「新論考」で提案する「**長寿時代のライフサイクル**」は、「青少年期」「中年期」を過ぎおえて「高年期」にある人びとに手厚く、納得されるものとなっています。

青少年期	〇歳～二四歳	自己形成期	2 8 4 4 万人
バトンゾーン	二五～二九歳	選択期	6 6 8
中年期	三〇～五四歳	労働参加・社会参加期	4 2 3 3
パラレルゾーン	五五～五九歳	高年準備期・自立期	7 6 5
高年期	六〇～八四歳	地域参加・自己実現期	3 7 2 1
高年前期	六〇～七四歳		2 6 0 7
高年後期	七五～八四歳		1 1 1 4
長命期	八五歳～	ケア・尊厳期	4 7 8

総人口（2014・10・1現在計概算値） 1億2709万人

（「自立・参加・ケア・自己実現・尊厳」の五つは国連が提唱する「高齢者五原則」）

六五歳以上 3300万人（26.0%） 七五歳以上 1592万人（12.5%）

★2022年「世界高齢化会議WAA22」招致は、わが国が2020年「東京オリンピック・パラリンピック」とともに同時進行で推進すべき国際的課題です。

★新論考『まあ、いいか、でいいか 「人生90年」時代を前にして』（10・1稿）を巷間に投じます。元気な高齢者が「引退余生」ではなく「現役長生」型の意識をもつこと、潜在力を発揮して地域で「共生の文化」創成の活動をし、職域で定年を前にした高齢社員とともに高齢者向け自社製品を創出して、地域と職域で存在感を示す時期にあります。来年の「地方創生」事業、「地方選」を通じて、全国に「シニア生活圏」を形成することが、地域・平和・民主主義を守る“歴史的事業”となると確信しています。

★一人ひとりが長寿を喜べる「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受できる「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の目標です。（編集人 記）

